

自己評価報告書(最終報告)

報告者

幼年発達支援コース
／浜崎 隆司

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

- ① 人間関係の授業の中で、保育者の保育技術や保育能力の向上も重要であるが、それが生かされるためには、保育者と子どもとの信頼関係の構築がまず保育が重要であることを理解させる。
- ② 幼児心理関連の講義だけでなく、自分を知るための自己分析、人を信頼することの疑似体験、遊びの実践など、自分の活動を通して、保育者としての資質についての自己省察を取り入れる
- ③ 授業の最初に、成績評価についての説明を行い、筆記試験のほかに、課題への取り組みの状況、授業中の発言、出席等についての総合評価を行う。

2. 点検・評価

- ① 講義科目である保育内容(人間関係)の授業の中で、保育者の保育技術や保育能力の向上を踏まえた上で、保育者と子どもとの信頼関係の構築がまず保育が重要であることを理解させることを講義を行った。
- ② 幼児心理関連の講義だけでなく、自分を知るための自己分析、人を信頼することの疑似体験、遊びの実践など、自分の活動を通して、保育者としての資質についての自己省察を取り入れて講義を行った。
- ③ 授業の最初に、成績評価についての説明を行い、筆記試験のほかに、課題への取り組みの状況、授業中の発言、出席等についての総合評価を行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

・幼児教育関連の講義内容の中で、幼児と保育者、幼児と親、幼児同士の人間関係を中心に、信頼関係をどのように構築し維持していけばよいのかを講義内容に含める。

・学生の意欲を引き起こし、基礎学力や応用力をしっかりと身に付けさせるために、講義だけでなく、保育現場や家庭の親子関係の映像資料を随時用いて、興味関心を持たせ、自分自身の問題として討論させる。

・大学院生の研究意欲を高めるために、大学院生(博士課程院生を主として)と共に自主的な研究会を設け、その研究成果を学会で発表し学会誌に投稿する。

・教職志望の学生のために、模擬面接・模擬授業を実施する

・心理学を専攻しているので学生の進路・悩み等についてゼミ生だけでなく、講義受講者にも相談事があれば、受け入れることを通知し、相談があれば積極的に応じる。

2. 点検・評価

・幼児教育関連の講義内容の中で、幼児と保育者、幼児と親、幼児同士の人間関係を中心に、信頼関係をどのように構築し維持していけばよいのかを講義で行った。

・学生の意欲を引き起こし、基礎学力や応用力をしっかりと身に付けさせるために、講義だけでなく、保育現場や家庭の親子関係の映像資料を随時用いて、興味関心を持たせ、自分自身の問題として討論させた。昨年度は3歳～5歳の子どもの幼稚園での心や社会性の発達にかんするDVDを学部授業および大学院の演習の授業で活用した。

・大学院生の研究意欲を高めるために、大学院生(博士課程院生を主として)と共に自主的な研究会を設け、その研究成果を学会で発表し学会誌に投稿する。日本応用心理学会で1件の発表および日本応用教育心理学会での査読論文採択1編があった。

・教職志望の学生のために、模擬面接・模擬授業については実施できなかった。

・心理学を専攻しているので学生の進路・悩み等についてゼミ生だけでなく、講義受講者にも相談事があれば、受け入れることを通知し、相談があれば積極的に応じる。昨年度4件ほどの相談を受けている

II-2. 研究

1. 目標・計画

継続研究として、親子の信頼関係の尺度開発を行う。その成果を、論文化し投稿する。さらに、その資料を保育者対象の研修や講演・子育て相談を行う際の資料として活用する。

大学院生との共同研究(添い寝に関する研究)を行い、その成果を、論文化し投稿する。さらに、その資料を保育者対象の研修や講演・子育て相談を行う際の資料として活用する。

初心者向けの保育の心理学のテキストや教材を編集執筆する。

2. 点検・評価

継続研究として、親子の信頼関係の尺度開発を行い、分析を行った。その成果は、次年度論文化し投稿予定。その資料を保育者対象の研修や講演・子育て相談を行う際の資料として活用した。現在一部データを鳴門市の子育て支援事業(教育相談)で活用した。大学院生との共同研究(添い寝に関する研究)を行い、その成果を、論文化し投稿した。現在査読論文2件内定中

初心者向けの保育の心理学のテキストや教材を編集執筆(保育の心理学ナカニシヤ出版)し次年度出版の予定。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

コース長を続投し、コース運営に貢献する。
連合大学院博士課程の先端課題実践課題連合講座議長として、教員資格審査等連合大学院博士課程後期の講座運営に貢献する。
大学院定員充足のための大学訪問、説明会等に積極的に参加する。

2. 点検・評価

コース長を続投し、コース運営に貢献した。
連合大学院博士課程の先端課題実践課題連合講座議長として、教員資格審査等連合大学院博士課程後期の講座運営に貢献した。
大学院定員充足のための大学訪問、説明会等に積極的に参加した。3大学での大学院定員充足のための説明会訪問等以外に11月に比治山大学で大学院説明会を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

附属幼稚園と連携を図りながら、毎年実施されている自然プロジェクト等の企画に参加し支援する。
教育支援アドバイザーに登録し、依頼があれば優先して講演等の依頼を受ける。
徳島県内、特に鳴門市内の幼稚園等の保育相談・研修依頼・講演依頼を積極的に引き受ける。
鳴門市の子ども・子育て支援計画策定事業の委員として参加し地域との連携を図る。

2. 点検・評価

附属幼稚園と連携を図りながら、毎年実施されている自然プロジェクト等の企画に参加し支援した。
教育支援アドバイザーに登録し、依頼があれば優先して講演等の依頼を受ける。昨年度依頼なし。
徳島県内、特に鳴門市内の幼稚園等の保育相談・研修依頼・講演依頼を積極的に引き受けて、実施した。保育相談3件を行った。
鳴門市の児童福祉審議会子ども・子育て支援計画策定事業の会長として参加し地域との連携を図った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)